

平成18年度及び平成19年度食品健康影響評価技術研究課題の中間評価の結果について

1 平成18年度食品健康影響評価技術研究課題

研究課題 番号	研究課題名	主任研究者	所属組織	研究期間	評価結果	コメント
0601	メチル水銀とダイオキシンの複合曝露による次世代の高次脳機能のリスク評価手法	遠山千春	東京大学大学院医学系研究科・疾患生命工学センター	平成18年度～20年度 (3年間)	継 続	概ね計画とおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成20年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実に行うこと。
0602	一般集団およびハイリスク集団への食品中有害物質の曝露評価手法の開発	香山不二雄	自治医科大学（地域医療学センター環境医学部門）	平成18年度～20年度 (3年間)	継 続	概ね計画とおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成20年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実に行うこと。
0603	BSEのリスク評価とサーベイランスの効果的手法の研究：北海道の場合	門平睦代	帯広畜産大学畜産学部	平成18年度～20年度 (3年間)	継 続	概ね計画とおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成20年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実に行うこと。
0604	vCJDリスク評価のための効果的BSEサーベイランス手法に関する研究	山本茂貴	国立医薬品食品衛生研究所	平成18年度～20年度 (3年間)	継 続	概ね計画とおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成20年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実に行うこと。
0605	非加熱喫食食品から検出されるリステリア・モノサイトゲネスのリスク評価に関する研究	藤井建夫	東京海洋大学海洋科学部	平成18年度～20年度 (3年間)	継 続	概ね計画とおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成20年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実に行うこと。
0606	生食用カキに起因するノロウイルスリスク評価に関する研究	西尾治	国立感染症研究所感染症情報センター第六室	平成18年度～20年度 (3年間)	継 続	概ね計画とおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成20年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実に行うこと。
0607	いわゆる新開発食品等の安全性評価法の開発に資する生体反応メカニズム研究	菅野純	国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター毒性部	平成18年度～20年度 (3年間)	継 続	概ね計画とおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成20年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実に行うこと。

2 平成19年度食品健康影響評価技術研究

研究課題 番号	研究課題名	主任研究者	所属組織	研究期間	評価結果	コメント
0701	遺伝子多型ラットを用いたペルオキシ ソーム増殖剤のヒト発がんリスクの評価 法の開発	土田成紀	弘前大学	平成19年度 ～21年度 (3年間)	継 続	概ね計画とおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に 沿って、引き続き、継続することが妥当
0702	ヒト肝組織を用いたアクリルアミドの変 異原性の評価とその関連遺伝子の解析	笹野公伸	東北大学	平成19年度 ～21年度 (3年間)	継 続	概ね計画とおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に 沿って、引き続き、継続することが妥当
0703	化学物質による肝肥大誘導機序の解析を 基盤とした肝発がんリスク評価系の構築	出川雅邦	静岡県立大学	平成19年度 ～21年度 (3年間)	継 続	概ね計画とおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に 沿って、引き続き、継続することが妥当
0704	毒性データの不確実性とヒトへの外挿法 に関する研究	長谷川隆一	国立医薬品食品 衛生研究所	平成19年度 ～21年度 (3年間)	継 続	概ね計画とおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に 沿って、引き続き、継続することが妥当
0705	予測微生物学的解析手法を用いた微生物 学的リスク評価システムの開発	小関成樹	(独)農業・食品 産業技術総合研 究機構 食品総 合研究所	平成19年度 ～21年度 (3年間)	継 続	概ね計画とおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に 沿って、引き続き、継続することが妥当
0706	腸管出血性大腸菌の牛肉を介したリスク に及ぼす要因についての解析	工藤由起子	国立医薬品食品 衛生研究所	平成19年度 ～21年度 (3年間)	継 続	概ね計画とおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に 沿って、引き続き、継続することが妥当
0707	食用動物からヒトに至る薬剤耐性遺伝子 の伝播の解明と評価手法の開発	青木宙	東京海洋大学	平成19年度 ～21年度 (3年間)	継 続	概ね計画とおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に 沿って、引き続き、継続することが妥当
0708	遺伝子組換え食品等のアレルギー性・腸 管免疫影響のインビトロ評価系の開発	手島玲子	国立医薬品食品 衛生研究所	平成19年度 ～21年度 (3年間)	継 続	概ね計画とおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に 沿って、引き続き、継続することが妥当
0709	効果的リスクコミュニケーションのため の学際的人材育成システムの構築	小泉 望	大阪府立大学	平成19年度 ～21年度 (3年間)	中 止	19年度の研究計画のうち、「人材育成システムの検討」は実施され ているが、人材育成カリキュラムの作成のための具体的な方針や手 法などの検討の内容が明らかでない。 また、「人材育成の実践」は実施されているが、育成の効果などの 具体的な成果が明らかでない。 したがって、当該研究は19年度限りで終了することが妥当。